

常態化する米軍パラシュート降下訓練に嚴重抗議する意見書

令和7年6月27日、米軍は、嘉手納飛行場において、基地周辺自治体及び議会が再三にわたり中止を求める中、令和5年12月から数えて13回目となるパラシュート降下訓練を強行した。訓練は午後4時30分頃から同8時35分頃までの間に、米軍機から6回計45名の兵士のパラシュート降下が確認された。

同訓練について、嘉手納飛行場は住民居住地に極めて近接し、操縦ミスや突風に煽られ住民居住地に着陸及び部品等が落下すれば重大な事故につながる。5月13日には本部半島でUH1ヘリより発火性の物体を含む18キロのカバン落下事故が発生し、今パラシュート降下訓練の二日前6月25日には津堅島訓練場において投下訓練中に物資がパラシュートから外れて海上に落下する事故が発生している。両事故は幸いにも人身等への危害が発生しなかったが、一步間違えば生命をも失いかねない。住民居住地に極めて近接する嘉手納飛行場でのパラシュート降下訓練は断じて容認できない。

そもそも同訓練は、伊江島補助飛行場で実施することが日米特別行動委員会（SACO）最終報告で合意されている。日本政府は「不定期」、「小規模」、「緊急の必要性」、「滑走路の不具合の継続」の4要素が例外の理由に当たるとの認識を示し追認しているが、令和5年12月から数えて13回目、今年に入って3回目の訓練実施は不定期とは言えず、今回の降下人数45名、降下兵員総数は314名を超え、小規模とは言えない。明らかな日米特別行動委員会（SACO）合意違反であり、なし崩しの運用が懸念される。

嘉手納基地においては常駐機・外来機が入り混じり、早朝から轟音を立てながら断続的に離発着、飛行訓練が繰り返され、パパールプ地区では昼夜を問わずエンジン調整や訓練が行われている。また、使わないとされている旧海軍駐機場への機体の侵入、ヘリ格納庫建設や防錆整備格納庫建設計画、さらに無人偵察機MQ9、MQ4の配備、来春予定されるF15EXの配備計画など、際限なき基地負担の増加が懸念される。

このような状況下で実施される嘉手納飛行場でのパラシュート降下訓練は基地周辺住民が求める基地負担軽減に逆行しており、我慢に我慢を重ねてきた町民の怒りは頂点に達している。

よって、嘉手納町議会は町民の生命、財産、安全及び平穏な生活を守る立場から、嘉手納基地での常態化する米軍パラシュート降下訓練に対し嚴重に抗議するとともに、下記事項の速やかな実施を強く要求する。

記

- 1 嘉手納基地における米軍パラシュート降下訓練を全面禁止すること。
- 2 平成19年に日米合同委員会で合意された「例外的措置」を撤廃すること。
- 3 同訓練は伊江島補助飛行場滑走路改修が完了するまでの間、県外・国外で実施すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和7年7月23日
沖縄県嘉手納町議会

（あて先）

内閣総理大臣 外務大臣 防衛大臣 内閣官房長官（沖縄基地負担軽減担当）

沖縄及び北方対策担当大臣 外務省特命全権大使（沖縄担当） 沖縄防衛局長 沖縄県知事

常態化する米軍パラシュート降下訓練に嚴重抗議する決議

令和7年6月27日、米軍は、嘉手納飛行場において、基地周辺自治体及び議会が再三にわたり中止を求める中、令和5年12月から数えて13回目となるパラシュート降下訓練を強行した。訓練は午後4時30分頃から同8時35分頃までの間に、米軍機から6回計45名の兵士のパラシュート降下が確認された。

同訓練について、嘉手納飛行場は住民居住地に極めて近接し、操縦ミスや突風に煽られ住民居住地に着陸及び部品等が落下すれば重大な事故につながる。5月13日には本部半島でUH1ヘリより発火性の物体を含む18キロのカバン落下事故が発生し、今パラシュート降下訓練の二日前6月25日には津堅島訓練場において投下訓練中に物資がパラシュートから外れて海上に落下する事故が発生している。両事故は幸いにも人身等への危害が発生しなかったが、一步間違えば生命をも失いかねない。住民居住地に極めて近接する嘉手納飛行場でのパラシュート降下訓練は断じて容認できない。

そもそも同訓練は、伊江島補助飛行場で実施することが日米特別行動委員会（SACO）最終報告で合意されている。日本政府は「不定期」、「小規模」、「緊急の必要性」、「滑走路の不具合の継続」の4要素が例外の理由に当たるとの認識を示し追認しているが、令和5年12月から数えて13回目、今年に入って3回目の訓練実施は不定期とは言えず、今回の降下人数45名、降下兵員総数は314名を超え、小規模とは言えない。明らかな日米特別行動委員会（SACO）合意違反であり、なし崩しの運用が懸念される。

嘉手納基地においては常駐機・外来機が入り混じり、早朝から轟音を立てながら断続的に離発着、飛行訓練が繰り返され、パパールプ地区では昼夜を問わずエンジン調整や訓練が行われている。また、使わないとされている旧海軍駐機場への機体の侵入、ヘリ格納庫建設や防錆整備格納庫建設計画、さらに無人偵察機MQ9、MQ4の配備、来春予定されるF15EXの配備計画など、際限なき基地負担の増加が懸念される。

このような状況下で実施される嘉手納飛行場でのパラシュート降下訓練は基地周辺住民が求める基地負担軽減に逆行しており、我慢に我慢を重ねてきた町民の怒りは頂点に達している。

よって、嘉手納町議会は町民の生命、財産、安全及び平穏な生活を守る立場から、嘉手納基地での常態化する米軍パラシュート降下訓練に対し嚴重に抗議するとともに、下記事項の速やかな実施を強く要求する。

記

- 1 嘉手納基地における米軍パラシュート降下訓練を全面禁止すること。
- 2 平成19年に日米合同委員会で合意された「例外的措置」を撤廃すること。
- 3 同訓練は伊江島補助飛行場滑走路改修が完了するまでの間、県外・国外で実施すること。

以上、決議する。

令和7年7月23日
沖縄県嘉手納町議会

（あて先）

駐日米国大使	太平洋空軍司令官	在日米軍司令官	在沖米四軍沖縄地域調整官
在沖米国総領事	嘉手納基地第18航空団司令官	沖縄県議会議長	